

授業科目 全人的医療論

【担当教員名】 遠藤 和男 5学科から推薦された各教員	対象学年	3	対象学科	理学・作業・言語・健康・社会
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

<概要> 「全人的医療」という用語も人それぞれ捕らえ方が異なっており、例えば肉体的な疾患だけでなく、心身症への対応を主とする場合もあるし、チーム医療を全人的医療の基本と考える場合がある。そこで本学では、①チーム、②地域、③人間性尊重を3つの大きな柱として、本学独自の「全人的医療」論を構築していきたいと考えている。

<一般目標：G I O>

将来医療の現場で対象者を病像として捉えるのではなく、トータルな人間像として接する全人的医療に貢献するために、従来の疾患、病院、管理センターの医療の反省を踏まえた上で、チーム、地域性及び人間性を尊重した医療の方法論を修得する。

<行動目標：S B O>

1. 全人的医療の特徴及び重要性を説明できる。
2. 現代医療の様々な問題点を説明できる。
3. 疾患中心の医療と全人的医療との違いを指摘できる。
4. 病院から地域へと移行する場合の利点と欠点を説明できる。
5. チームの一員であるという自覚を持ってグループ討議に参加する。
6. チーム医療における自己の専門職種役割を模倣する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題/担当教員
1	全人的医療とは	1	講義/遠藤
2	現代医療の問題点	2,3	小グループ討議/遠藤
3	地域医療の理念	3,4	講義/外来講師
4	地域医療と専門性	3-5	小グループ討議/遠藤
5	理学療法士の役割	5,6	方法未定/理学療法学科教員
6	事例検討1	5,6	小グループ討議/遠藤
7	作業療法士の役割	5,6	方法未定/作業療法学科教員
8	事例検討2	5,6	小グループ討議/遠藤
9	言語聴覚士の役割	5,6	方法未定/言語聴覚学科教員
10	ロールプレイ1	3,5	討議から全体発表/遠藤
11	管理栄養士の役割	5,6	方法未定/健康栄養学科教員
12	ロールプレイ2	3,5	討議から全体発表/遠藤
13	社会福祉士の役割	5,6	方法未定/社会福祉学科教員
14	これからの医療体制	1-6	小グループ討議/遠藤

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	チーム医療論	鷹野和美編著	医歯薬出版	2002、¥2,000+税
参考書	バリエーション療法—全人的医療入門	池見西次郎監修、永田勝太郎編	医歯薬出版	1995、¥4,369+税
	ケースメソッドによる公衆衛生教育	矢野栄二ら編	南江堂	2000、¥2,500+税
その他の資料	遠藤が担当する場合、参考書の事例についてレジュメを配布する。			

【評価方法】	【履修上の留意点】
1. 普段から出席と観察記録をつけている。	1. 小グループ討議を中心にしたいため、余り希望者が多いと開講できない。
2. 最終回にレポートを提出させる予定である。	2. 1年次に「医療福祉ティームワーク論」を履修しなかった者を優先する。
	3. 昨年度は希望者が少なかったため、開講しなかった。